

1. 一般社団法人コンサートプロモーターズ協会からの要望

国際都市東京に相応しい文化施設建設に関する要望書

日頃は、音楽産業・音楽文化の進展に関して、格別のご高配を賜り感謝申し上げます。

まず、国民の念願でありました「2020年東京オリンピック・パラリンピック」の開催が決定し、心よりお慶びを申し上げますとともに、そのご尽力に対し心より敬意を表します。

また、この度の開催は、スポーツへの関心の向上だけではなく、国際交流、首都圏の再開発、そして東日本大震災からの復興を示す重要な機会に位置付けられることと存じます。

以下、要望について述べさせていただきます。

国際都市東京に 20,000 人規模の文化施設を！

■ 要望の理由

現在、私たちがライブイベントに使用している東京の大規模施設は、昭和39年の東京オリンピックで建設されたスポーツ施設であり、その構造などの諸条件によって運営上あるいは演出面においても様々な制約が生じております。

一例を挙げれば、同じ国際都市ニューヨーク及びその近郊には、15,000人以上収容できる施設が4館あり、スポーツとの共存、大型展示会との併用など有効に使用されています。

このように建設当初よりライブエンタテインメントでの利用をふまえた大規模施設の存在こそが文化都市東京に必要であると考えます。

■ 期待される効果

国際都市東京の大規模施設で質の高いエンタテインメントが開催されることで、多くの人々に喜びを提供することはもちろん、クールジャパンと言われるような世界に誇る日本の文化を世界に拡げていく力を支え、雇用経済を生み出し、日本の新たな産業・文化の両面に好循環をもたらします。

(平成 26 年 8 月)

2. 一般社団法人日本バレエ団連盟からの要望

東京のバレエ劇場不足解消を！

いまや東京は世界最大の芸術・文化市場の一つと認められており、バレエにおいても数々の日本人ダンサー、国内バレエ団が世界的に高い評価を得るところまできています。ところが、ここに来てバレエ上演に適した劇場が建物の老朽化等の理由により次々に閉館されています。上演会場がないのは、芸術団体にとって死活問題といって過言ではありません。

近い将来、バレエに適した新しい劇場の建設を希望しますが、まずは劇場不足からバレエ団の公演活動が衰えることのないように、具体的な施策が必要です。

◆改築が予定される日比谷公会堂を、バレエやオペラの殿堂に

2020年以降の建て替えが発表されている日比谷公会堂は、昭和20年代から30年代にかけてクラシック・コンサートやオペラ・バレエ公演の会場として活発に利用され、音楽・舞踊の殿堂とみなされていました。有楽町・日比谷の劇場街、丸の内のビジネス街に接する緑豊かな公園内にあり、立地的にも歴史的にも、日本を代表する劇場としてのポテンシャルを持った日比谷公会堂を、ぜひバレエ・オペラの上演に適した機構、条件を備えた劇場に建て替えてもらいたいと念願しています。

◆仮設劇場によりバレエ上演の場の確保を

来年からスタートする東京五輪の文化プログラムを控え、既に閉館された劇場に替わる上演場所の確保は緊急の課題です。その解決策として、仮設劇場の建設が考えられます。国や自治体、企業の所有する遊休地等を借用し、東京五輪の文化プログラム展開時期に合わせてバレエの上演できる仮設劇場を建てられないかと考えています。

◆貸館ルールの改訂により、公共ホールを利用しやすく

公立でバレエ上演が可能な設備をもちながら、「条例」等の制約から、1年前に抽選に当たらなければ利用できなかつたり、数日間まとめて借りられないなどの貸館ルールがあつたりして、バレエの公演には使えない会場があります。このルールの緩和によって、バレエの公演活動ができる場が増えることを願っています。

また、オペラ・バレエ専用劇場である新国立劇場オペラパレスを今以上に最大限活用できるよう、稽古場の増設、舞台スタッフの増員を図って公演実施可能日を増やし、新国立劇場と芸術団体の新たな連携事業のあり方を検討することも一策です。

3. 各団体からの主張 ～アンケートより～

ホール不足で舞台芸術に従事しようとする若い人材の育成にも支障が生じます

プロの舞踊家による公演活動のみならず職業舞踊家を目指す若い人材にとって非常に貴重な実践経験の場である「発表会」のための劇場・ホール確保は現状でさえ非常に困難な状況にあり、これ以上のホールの不足は強いては将来的な我が国舞踊家の質・量共の低下を招きかねません。なんとなれば国公立による舞踊家養成機関の無い我が国では舞踊家を目指す子供たちは小中高等学校に通いながら市井の民間教習所に通っており、これら教習所が「発表会」を開催できるのは基本的に土日祝祭日、春夏冬休みに限られます。この限られた期間に首都圏だけでも推定 1000 箇所近い教習所の発表会が集中する訳で、これ以上のホール不足が招来する結果は「発表会」開催を困難にさせ、それは生徒の実践不足のみならずモチベーションの低下、さらには舞踊を志す人材の減少に直結いたします。

公益社団法人日本バレエ協会

必要な改修が困難に直面し、文化環境整備が後回しに

クラシック音楽コンサートなどの会場となる中規模ホール〔浜離宮ホール、トッパンホール、サンケイホール、よみうり大手町ホール等〕は比較的充実しているものの、青山劇場や五反田ゆうぽうと等の大規模ホールの閉鎖、サントリーホールの改修等が予定されており、大規模ホールは不足傾向にあります。また、小規模ホールについては多くの公的文化施設に頼らざるを得ず、市民やアマチュア団体の利用とも競合するので、一部の団体では自分達のことを「ホール難民」と呼んでいるところまであり、大規模ホール同様に不足しております。

東京文化会館では昨年、オリンピック前にバリアフリー工事をする計画がありましたが、五輪関係のスポーツ施設の工事遅れを懸念して改修は五輪後に延期になりました。このような影響は全国の公立文化施設にも及んでいます。60年代以降の市民会館ブームにより各地で建設された文化施設が軒並み築50年に近付き、耐震補強だけでなく、建替え計画を進めている自治体が多くあります。しかし、五輪に向け全国的に建設費が急騰しており、各自治体が当初予定していた金額では改修や建替えが難しくなっています。スポーツ関連の工事優先により文化施設にその煽りが生じていることはあきらかです。

一般社団法人日本クラシック音楽事業協会

舞台スタッフの人材流出と技術・ノウハウの喪失を防ぐ

劇場・ホール、それぞれの館の歴史は、そこで働く舞台技術スタッフのキャリアと技術の研鑽・伝承の歴史でもあります。

現場で働くスタッフとは全く関わりのないところで閉館が決まり、技術スタッフが仕事を失い、あるいは不本意な再就職先を選択せねばならない事態は、繰り返して欲しくありません。

また、それによってその劇場で蓄積されてきた技術データやノウハウも、人材の離散と共に霧消してしまいます。この損失も重く受け止めなければいけないことです。

老朽化の対策が閉館・取り壊ししかないというようなことではなく、本提言にあるように、機能高度化や更新への支援措置によって存続できることが何より重要なことです。よしんば閉館、解散したとしても、そこで働いていた技術スタッフが他の劇場で引き続き雇用され、技術やノウハウが伝承されるように、再就職を個人の人脈でしか探せない状況を改善する、「システムとしてのネットワークの整備」を願います。

一般社団法人日本舞台音響家協会

邦楽、日本舞踊などの伝統芸能に適したホールの不足

伝統芸能は畳敷きの控室と舞台が同一平面上にあり、控室は箏を並べられるほど広いことが望ましいです。

公立文化施設を利用しているが、毎年、同じ時期に定期演奏会を開きたくても、借りられるかどうかの抽選は1年前にならないとできない。2年前から予約ができるなど、しくみを柔軟にして欲しい。

洋楽のコンサートホールはあるが邦楽・邦舞の専用の会場がほとんどない。

一般社団法人関西常磐津協会

座席数、利用料などが伝統芸能に見合ったホールが少なく、今後の改善を願っています。

一般社団法人義太夫協会

例えば、芸能花伝舎のような廃校跡地などに、文化遺産である芸能と芸術が同じ場所で楽しめるように、国立の複合施設を建てることはできないでしょうか？

清元協会

伝統芸能に適した会場が不足しています。

筑前琵琶連合会